

# 26年9月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 8月20日～ 26年9月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目   |        | 26/9月  | 10月    | 11月    |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 入荷動向 | 国産材製材品 | 12.5   | 12.5   | 25.0   |
|      | 外材製材品  | 6.3    | 6.3    | 6.3    |
|      | その他    | 0.0    | 0.0    | 0.0    |
| 販売動向 | 国産材製材品 | △ 18.8 | △ 6.3  | △ 6.3  |
|      | 外材製材品  | △ 18.8 | △ 6.3  | △ 6.3  |
|      | その他    | △ 21.4 | △ 14.3 | △ 14.3 |
| 在庫動向 | 国産材製材品 | 25.0   | 12.5   | 0.0    |
|      | 外材製材品  | 25.0   | 12.5   | 6.3    |
|      | その他    | 0.0    | 0.0    | 0.0    |

・国産材及び外材製材品の入荷は、3ヶ月連続して増加基調。  
・販売は、いずれの品目も3ヶ月連続して減少傾向で推移。  
・国産材製材品の在庫は、9月、10月の増加が11月は横ばいに、外材は3ヶ月連続しての増加。

### (2) 価格動向 Weight. D. I.

| 品目            |             | 26/9月  | 10月    | 11月   |
|---------------|-------------|--------|--------|-------|
| スギ            | 柱角 KD10.5×3 | △ 18.8 | 0.0    | 0.0   |
|               | 柱角 KD12×3   | △ 18.8 | 0.0    | 6.3   |
|               | 通し柱 12×6    | △ 7.1  | 0.0    | 0.0   |
|               | 桁角          | △ 18.8 | △ 12.5 | △ 6.3 |
|               | 母屋角         | △ 12.5 | △ 12.5 | △ 6.3 |
|               | タルキ         | △ 12.5 | 0.0    | 0.0   |
|               | 間柱          | △ 12.5 | 6.3    | △ 6.3 |
|               | 加工板         | 0.0    | 7.1    | 7.1   |
|               | ヌキ          | △ 6.3  | 6.3    | 0.0   |
|               | 平割          | △ 6.3  | 6.3    | 0.0   |
| ヒノキ           | 柱角 KD10.5×3 | △ 12.5 | 6.3    | 0.0   |
|               | 柱角 KD12×3   | △ 12.5 | 6.3    | 0.0   |
|               | 土台角 10.5×4  | △ 12.5 | 12.5   | 0.0   |
|               | 土台角 12×4    | △ 12.5 | 0.0    | 6.3   |
|               | 通し柱 12×6    | 0.0    | 7.1    | 7.1   |
| カラマツ土台角10.5×4 | 0.0         | 0.0    | 0.0    |       |
| 米マツ平角         | △ 28.6      | 0.0    | 0.0    |       |
| 米マツ割物         | △ 28.6      | △ 7.1  | 0.0    |       |
| 北洋エゾマツタルキ     | △ 16.7      | 0.0    | 0.0    |       |
| 北洋アカマツタルキ     | △ 16.7      | 0.0    | 0.0    |       |

・スギ製材品の価格は、総じて9月の弱保合が10月、11月にはやや弱保合ないし保合に。

・ヒノキ製材品は、通し柱が9月保合なのを除き総じて9月は弱保合であるが、いずれも10月、11月には保合ないしやや強保合に。

・カラマツ土台は、3ヶ月連続して横ばい。  
・米マツ土台は、9月の弱含みが10月、11月には保合ないしやや弱保合に。

・エゾマツタルキ及びアカマツタルキは弱含まないし弱保合で推移。

### モニターからのコメント

(荷動き)

- ・各地市況の悪化で入荷は順調。販売は、お盆休み以降若干の回復の見込み。入荷増、出荷少で在庫増加。
- ・ヒノキ、スギ入荷好調、外材製品は一部品不足のグレードもあるが入荷は好調。ヒノキ、スギの構造材、羽柄材共に販売量は減少傾向、外材は安定販売。国産材は全体的に在庫増、外材は一部為替変動による先安観から在庫減も少しづつ出ている。
- ・国産材入荷増加、WW入荷増、アカマツタルキ3m少ない。販売は国産・外材共に動き少ない、アカマツ、WW単価下げ、米マツ割物下げ。記年市のため仕入れ強化、在庫やや増加。
- ・西方面素材減も需給はバランス。入荷減も需要は今いちで販売量増えず。素材減で在庫は減少。
- ・大雨で原木不足、バイオマス発電に原木が流れ入荷量減少。相変わらずプレカット工場、リフォーム業者からの注文が少ない。
- ・秋相場上昇を期待し、国産材、外材共に入荷を増やしている。入荷増に比べて販売は増えない模様。在庫は9月、10月、11月に向けて増えている。

(価格動向)

- ・夏に雨多く原木出荷が鈍く、スギ製品は市況の割に価格下がらず、ヒノキは底値安定で推移。
- ・スギ構造材はKD, GRN共に売りにくく価格は弱含みで推移。スギ羽柄材は供給過多傾向で弱含み、ヒノキ製品は安値価格が続く。米マツ割物、アカマツタルキも供給過多で弱含み。
- ・スギ柱角 (KD10.5cm、12.0cm) 58,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角 (グエイーン材)、母屋角 (グリーン材) 40,000/m<sup>3</sup>、スギタルキ (グリーン材) 45,000/m<sup>3</sup>、スギ間柱 (KD) 66,000/m<sup>3</sup>、スギ加工板 (グリーン材) 束2,800円、(KD) 束3,800円、スギヌキ (東北) 40,000/m<sup>3</sup>、(秋田) 50,000/m<sup>3</sup>、スギ平割 (プレーナー) 48,000/m<sup>3</sup> (ラフ) 40,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角・土台角 (KD) 90,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 (KD) 68,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物65,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ (S) 64,000円/m<sup>3</sup>、(P) 55,000円/m<sup>3</sup>。
- ・スギは、需給バランスからオール横ばいも、今後需要が増えた場合は品薄となる。ヒノキは素材減と翌月以降の需要持ち直しを見込んでやや上昇。
- ・スギ柱は、9月横ばいだが10月以降上昇していく見込み。スギ柱以外は、例年だと9月以降原木丸太の出材により、単価は上昇しがちでは有るが・・・現状では動きが遅い。ヒノキも前述のスギと同じ。米マツは為替が急激に円安となってきたが、9月価格は現状据え置き。北洋エゾマツ及びアカマツタルキは秋需次第で本格的な上昇を伴う動きになるだろう。